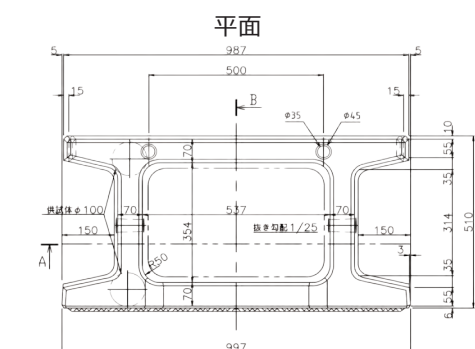


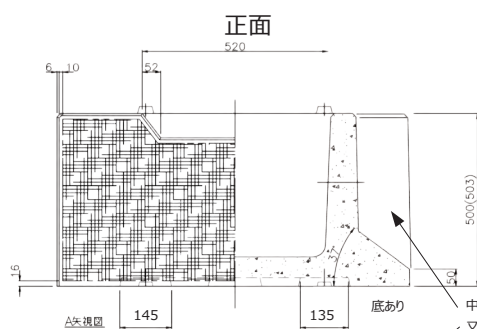
S-70

せいりゅう四万十（ポーラスコンクリートブロック）

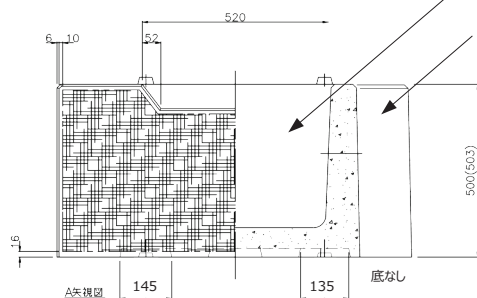
500型（H500*W500*L1000）



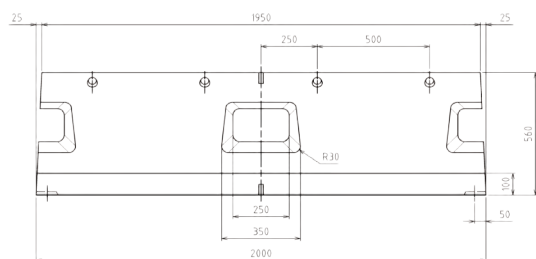
平面



正面



基礎版



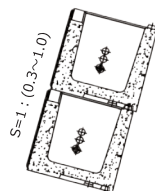
諸元表 基礎版

ブロック法勾配		寸法(mm)				参考質量 (kg/個)
		a	b	c	e	
直線積	3分	100	250	590	103	473
	4分	100	300	580	108	546
	5分	100	350	560	100	559
階段積	3分	100	200	610	152	462
	4分	100	200	610	106	415
	5分	100	250	610	111	497

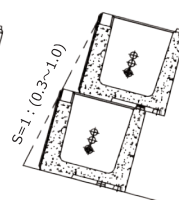
※ 基礎底面勾配20%あり。

積み上げ例

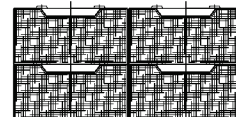
直線積



階段積

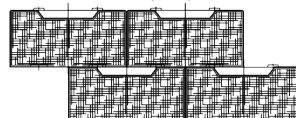


布積(練積)



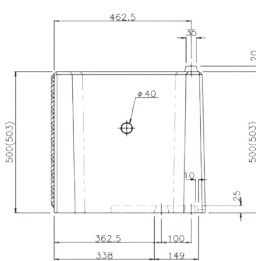
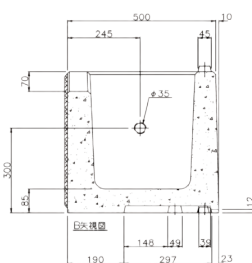
(正面)

千鳥積(空積)



(正面)

側面

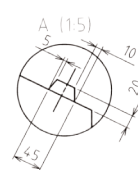
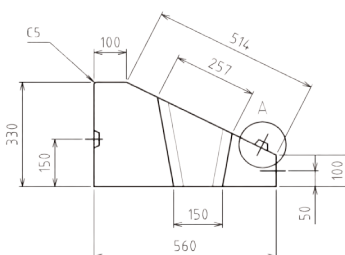


諸元表

	体積 (m ³)	比重 (ポーラス)	中詰め量(m ³)		参考質量 (kg)
			空詰	練詰	
底あり	0.1284	2	0.110	0.072	257
底なし	0.1204	2	—	0.049	241

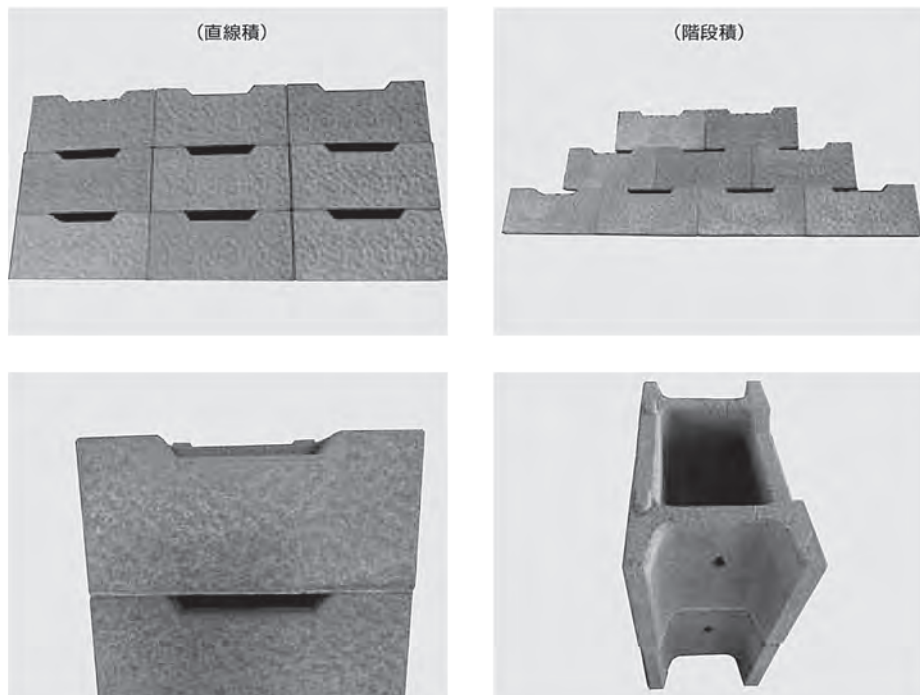
※ 練積の場合は、延長10m以内に目地を配置する。

基礎版直線積（5分用）



S-70

せいりゅう四万十（ポーラスコンクリートブロック）



ポーラスコンクリート河川護岸の構造仕様

護岸タイプ	強度	空隙率	摘要セグメント
強度重視護岸タイプ	18N/mm ² 以上	18%±3%	M～2

護岸工法設計流速関係表（C表抜粋）（国土交通省「美しい山河を守る災害復旧基本方針」より）

護岸の法勾配が1：1.5より急な場合に適用する工法例
（他工法等の施工実績を踏まえ、今後見直していくものとする。）

護岸工法設計流速関係表

セグメント（流程区分）			復旧工法例			設計流速										
山間地河道	谷底平野 扇状地河道	自然堤防帯 三角州	素材	構造	工法	(m/s)										
						2	3	4	5	6	7	8	～			
			コンクリート系	コンクリート ブロック(練積)	9 コンクリート ブロック練積	4～8										
					10 ポーラスコンクリート ブロック練積	4～8										
				コンクリート ブロック(空積)	11 コンクリート ブロック空積	5										
					12 ポーラスコンクリート ブロック空積	5										

※ 上表の適用範囲は目安であるため、設計流速に適用できる合理的な工法は積極的に採用して良い。

※ 復旧工法の留意事項を十分考慮し、工法を選定する。